

学校教育目標		平成27年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校自己評価表 広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現				5段階評価				
目指す学校像(ビジョン)										
【目指す学校像】 ●生徒一人一人が主役となる学校 ●生徒、保護者、地域から信頼され愛される「明日が待たれる学校」										
【目指す生徒像】 ●自己実現に向け、自ら考え進んでやりぬく心と体をもつ生徒 ●自他を尊重し、正しい判断に基づき、責任を重んじ協力する生徒 ●伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、広く社会に貢献しようとする生徒 ●「文武両道」に励む活力ある生徒										
【目指す教師像】 ●分かりやすい授業ができ、生徒の学ぶ意欲を引き出す教師 ●生徒の声に耳を傾け、共感的に理解し、励まし支援する教師 ●時に優しく、時に厳しく、毅然とした指導を遂行する教師 ●生徒の良さを引き出し、生徒の自己実現を支援する教師										
本校の実態と課題										
○素直で、文武両道に励む生徒が多い。さらに向上心の育成が必要である。										
○集団生活では、規律を守ろうとする生徒が多い。さらに自律心の育成が必要である。										
○行事やボランティア活動に熱心に取り組む生徒が多い。さらに主体的な生徒の育成が必要である。										
○開校55周年目を迎えた地域に愛される学校であり、保護者、地域からの支援が多い。さらに行動連携を図る必要がある。										
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策		取組指標		成果指標		取り組みと分析	改善策
			中間	年間	中間	年間				
確かな学力の向上	生徒が生涯に渡り人生を切り拓いていくことのできる確かな学力を身に付ける生徒の育成	基礎的・基本的な知識・技能の定着と、協力的学び合う態度の育成	「授業改善推進プラン」を基に、「基礎・基本の定着」を図り、組織的な「魅力ある、確かな学力をはぐくむ授業力の向上」を目指した授業づくり	4	4	4	4	「授業改善推進プラン」を活用して授業改善を適宜行った。研究授業の実践、参観、協議会等により、組織的に魅力ある授業づくりを図ってきた。生徒授業アンケート後期では平均93%の生徒が「先生の授業は分かりやすい、分かりやすい方である」と答えている。	国や都の学力調査問題や調査結果をより具体的に活かす。年間指導計画、定期考査問題に反映させる。保護者の授業に対する満足度がいまだ50%台である。1学年「各教科の基礎」を領域ごとに明確に言葉で示す。	
			個別支援学習の実施と「つまずき」と「基本的学習スキルの定着」を図り、学習の途切れの改善	4	4	3	3	夏季休業中には、全学年において、5回以上の補習、質問教室を実施した。また、定期考査前にも全学年において、質問教室を実施した。学校評価では70%の保護者が満足している。	20%の保護者が質問教室や補習教室について理解を示していない。その理由を探る。悩む生徒や保護者のゼロをめざし、個別対応し、学習の途切れのない指導に邁進する。	
			学校図書館を有効活用した教科指導・朝読書・朝学習の実施	3	4	3	4	全校朝礼等で図書委員会による読書量の多い生徒の表彰を行うなど、読書の啓発に努めている。学校評価でも3から4にランクアップしている。	全校での「朝読書」の定着を図る。また、読書を好まない生徒の減少をめざし、読書の楽しさやメリットを図書委員会を中心に伝える活動を支援していく。	
		思考力・判断力・表現力等を伸ばし、課題解決できる能力の育成	意見の異なる生徒同士の討論・討議や体験や調べたことをまとめ、発表し合う授業づくり	3	4	3	3	意見文発表会、上級学校調べ発表会、ディベート等といった総合的な学習の時間と各教科において実践した。各教科における活動は70%程度の生徒が満足している。	授業アンケートだけでなく、学校評価アンケートにも該当項目を追加、実践の明確化を図る。評価が3から4にアップするよう、年間指導計画に盛り込み、意識的に授業に取り入れる。	
豊かな心の育成	全教育活動を通して、人権教育・道徳教育を中心とした心の教育を充実させ、豊かな人間性・道徳的実践力の育成	人権教育を推進し、自他の人権を尊重する意識と態度の育成	人権標語カレンダーの作成・掲示、生活アンケート、あいさつ運動等を通して日常的に人権尊重を基盤とした活動を行う。	4	4	3	4	本校の特色である「人権カレンダー」作成は、生徒全員が参加した。また、あいさつ運動の中でも、「おはよう運動」を各部長、副部長も参加するなど人権尊重を意識した実践を行った。前期70%から後期80%の生徒保護者が満足している。	今後は、人権カレンダー精選に生徒も参加するなど、学校評価の満足度をさらに向上させる。授業など日頃の学校生活で人権を尊重した教育を推進するよう、人権教育計画に反映させる。	
			教育相談週間を活用した教育相談の充実を図ったり、教育関係諸機関との連携を推進する。	4	4	3	3	本校の特色である「教育相談週間」は、年2回各1週間実施。少数ではあるが利用した生徒にとって有意義な場となった。また、のどかや児童民生委員との連携を速やかにこじれた。保護者アンケートでは前期54%から後期59%満足とあるが、学校がいじめや相談に応じる点や連携機関との連携については、個別の案件であり、また利用しなくても済むケースも多いのではないかと考えられる。	教育相談週間等での相談できる体制と秘密約束の厳守を伝えたり、保護者の子どもを学校へ通わせ安心感を高めるため、何かあった場合、学校だけでなく速やかに教育連携機関と連絡がとれることをさらにPRする必要がある。	
		道徳の時間を要とした生徒の内面的な道徳的価値観の育成	道徳の時間と各教科等との関連性を明確にし、道徳授業の内容と質の向上を図る。	4	4	3	4	本年度のテーマ「他者との関わりを通して、豊かな心を育む」の下、ワールドカフェ等の手法により、生徒に「主体的に考える」学習ができた。前期70%から後期79%の保護者が満足している。	「道徳の時間を要として」とあるように、道徳の時間にとどまることなく、各教科、領域等において、より一層、意識的に指導する必要がある。	
夢の実現	自分の夢を実現させるため、キャリア教育を通して、社会人としての自立を目指す生徒の育成	伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、社会に貢献する心の育成	職場体験や生徒会を中心としたボランティア活動を通して、地域に働く人々の役割・社会的貢献・郷土愛を学び、地域を愛する心を育成する。	4	4	2	2	職場体験や地域清掃、デイサービス訪問を通して、地域との関わりをもち、「働く人々の役割や郷土愛」について学んだ。一方、50%の保護者が、40%の生徒がボランティア活動に積極的にでないと回答。ボランティア活動の意義と魅力について理解を示していく。	1つのイベントとして終わらせないようにするために、事前・事後指導をしっかり行う。成就感をもたせることで次回への意欲をもたせる。各種たよりで、ボランティア活動への参加の呼びかけと魅力について繰り返し広報する。	
		将来に対する正しい職業観を養い、自分の生き方を客観的にとらえ、中学校卒業後の進路決定ができる生徒の育成	キャリア教育として、職業調べ、職場体験、進路学習を総合的な学習の時間を通して、自分の生き方を学び、自ら進路を切り開ける生徒の育成	4	4	4	5	1年次の職業講話、2年次の職場体験を通して、将来の自分像を描かせることで、3年次の進路選択に十分役立つことができた。以上のように、前期78%から後期87%の保護者が満足している。	将来の進路を見据えたいうでの現在の指導計画は妥当であると考えられるが、時代や社会のニーズに応じた指導計画を今後も絶やさず組んでいくこと。	
		学校生活の中で、自分の長所を伸ばし、集団の中で自己の役割を果たす生徒の育成	学校行事、学年行事、委員会活動、係活動等への取組を通して、集団の一員としての自覚と自己肯定感の成就を図る。	4	4	4	4	例えば合唱祭に向けた練習では、学年を超えた交流合唱を行った。下級生に上級生の歌声や歌う姿を披露することで、上級生としての自覚をもたせ、モチベーションを上げる機会がとれた。年間を通して80%の保護者が満足している。	合唱祭に向けた練習において、学年により、指導の手段・方法が異なることはあるが、今後計画的に予定を組む必要がある。	

【学校外部者意見】

- (1) 成果指標が低く、取組指標が高い項目では、取組む活動の意義や魅力が今後も継続して伝わるよう努めていただきたい。
- (2) 指標が5段階評価であることをわかっていただきたい。
- (3) 読書量を表彰することに加え、子ども同士で本の紹介をするなど「読書が楽しい」ことを伝え、今後とも朝読書の取組を継続していただきたい。
- (4) アクティブ・ラーニングの本格的な取組を実践するうえで、ディベート等の活動を今後も継続していただきたい。